令和５年度　府立莵道高等学校　学校経営計画（スクールマネジメントプラン）実施段階

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
変化し続ける時代の中で、なりたい自分を見据え、主体的に学び、進路を切り拓き、将来社会に貢献できる生徒を育てる。 １）集団の中で切磋琢磨し人格の形成を図る。 ２）個人の尊厳を重んじ、知・徳・体の調和のとれた発達を図る。 ３）地域に根ざした一層豊かな学校文化、「莵道文化」の創造を図る。	○　落ち着いた学習環境を維持し、あらゆる教育活動において粘り強い指導を行った。学校評価アンケートでは教育活動について一定の評価が得られた。 ○　教員が一人一台タブレット端末を持つことにより、ICTを積極的に活用した授業を展開することで、BYODに対応することができた。授　業改善に向けた取組は継続する必要がある。 ○　特色化事業やUJI学においては、コロナ禍の影響で発表や参加の機会が限られたが、生徒は真摯に、かつ意欲的に取り組むことができた。今後も学年、担当分掌、教科等で取り組み時間の確保や担当者間での調整が必要である。また、総合的な探究の時間のさらなる工夫と運用が課題である。 ○　外部機関とも連携しながら心身に悩みを抱える生徒や特別支援を要する生徒への指導を行った。今後も全教職員の知識と技能のスキルアップを目指す。 ○　広報活動では、学校公開・説明会・ＨＰ等の中で本校の魅力発信のために、在籍生徒の教育活動や学校生活の様子をさらに効果的に発信することが課題である。 ○　希望進路実現に向けて最後まで粘り強く丁寧な指導を続けた。納得のいく進路実現のため全校体制で３月まで指導していく組織作りが必要である。 ○　コロナ禍の影響で、学校行事や平素の教育活動の制限・変更を余儀なくされたが、工夫を凝らしながら柔軟に対応し、従前により近い形で教育活動を行うことができた。	○　本校の校訓である「さとく」「さやかに」「たくましく」をすべての教育活動の中に具現化し、「知」「徳」「体」のバランスがとれた生徒の育成を図る。 ○　質の高い授業をはじめとするすべての教育活動を通して組織的で計画性のある指導を行い、学力向上と進路希望の実現を目指す。 ○　生徒が安心して堂々と真面目な高校生活が送れる落ち着いた学習環境を維持する。また、種々の課題を抱える生徒に対して手厚い指導を行うとともに、安心して学校生活が送れるような指導体制を整える。 ○　タブレット端末やオンライン授業を活用した教育活動が必要な場面に応じてさらに進むよう努める。 ○　広報活動において、卒業生や在校生が直接中学生や保護者に語る機会を設け、莵道高校生の良さをアピールし生徒募集につなげる。 ○　特色化事業で得た知見を基に取り組んできた「総合的な探究の時間」の活動内容のさらなる充実を図る。 ○　コロナ禍の中、様々な制限の中で行っていた教育活動や取組を従前の形に戻していく中で、良かったところは残せるように図っていく。

評価領域（分掌領域）	重点目標	具体的方策	評価 項目	評価 総合	成果と課題
教務部	・新学習指導要領に基づいた教育課程を充実させるための研究・実践を行う。	・「主体的・対話的で深い学び」につながる授業について、研究・実践を行う。	C	B	・教務部としての研究・実践はまだ実施できていない。 ・個人端末を活用した授業を秋期授業交流週間で参観する機会を設けた。 ・各教科から観点別評価の成果と課題を集約できた。次年度末には課題の改善を図りたい。 ・総合的な探究の時間は１・２年とも計画的に進めることができた。
		・ＩＣＴを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた授業の在り方について、研究・実践を行う。	B		
		・観点別学習状況の評価を指導・学習改善につなげる方法を探る。	B		
		・総合的な探究の時間の充実を図る。	B		
生徒指導部	・自他の存在を大切にする心の育成を図る。	・道徳教育等の講演会や学校行事、部活動を通じて、自己肯定感の醸成を図るとともに、他人を尊重する心の教育を行う。 ・学年部、他分掌と連携し、携帯電話・スマートフォンの扱いや、タブレット使用に係る規程を守らせることで、落ち着いて学習に取り組める環境を作る。携帯電話・スマートフォン・タブレットに係る指導件数を25件以内に抑える。 ・いじめアンケートを活用して、いじめの早期発見と対応を行い、いじめのない生徒集団の形成を目指す。	C		・莵道祭では、仲間と協力し、役割毎の責任を全うしている生徒が多く、達成感も高かったように思われる。 ・現在、スマートフォン指導44件、タブレット指導18件 タブレット規定については、来年度の仕様に向けて整理している。 ・第一、二、三回いじめ調査該当者なし

	・社会の一員としての自覚と必要な技能の育成を図る。	・校門指導、身だしなみ指導を通じて、基本的生活習慣の確立を図るとともに、生徒が自発的に挨拶が行える雰囲気を校内に醸成する。また、講演などを通じてSNSに係る諸問題を理解させるとともに、学年部や教科と連携して適切に利用する指導を行う。 ・成人年齢引き下げに伴う責任や問題について理解させる。	B	B	・遅刻や身だしなみが整っていない生徒が若干名いるため、改善を図りたい。 ・例年１年生についてはSNS講演会を実施している。現段階でSNSに関する問題は起きていない。 ・成人年齢引き下げに伴う責任や問題については、12月に山城広域振興局より２年生対象で講演会を実施した。
	・生徒主体の学校づくりへの取り組みを推進する。	・学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動等の中で生徒が主体的に取り組める活動の場を提供する。 ・学期に１回、部活動代表者会議を開き、菟道高校や部の代表としての責任と自覚を持たせ、主体的に活動する集団を形成する。 ・生徒会本部と連携し、校則の見直しや行事内容の調整を図る。	A		・菟道祭では、教員のサポートが必要ではあったが、生徒が主体的に協力して、取り組むことができた。 ・生徒会の活動によって、菟道祭企画（ストリートフェスタ、フォトスポット）や、体育祭での挨拶や結果発表を行った。また西京高校へ訪問し、互いの学校生活や活動について意見交流を図ることや、２年生でブレインストーミングを実施するなど、生徒会を中心に、主体的に活動を行っている。
	・安心・安全な学校生活への取り組みを推進する。	・交通安全指導を通じて、生徒の安全に対する意識を高めるとともに、交通ルールの周知を図ることで、登下校時の生徒の安全を守る。年間の交通事故件数を10件以内に抑える。 ・ロッカーの利用を推進し、生徒の防犯意識を高める。	C		現在、登下校時交通事故件数13件 自転車の走行について苦情が複数届いていることから、引き続き注意を促したい。
総務企画部	・中学校や地域社会に対して、学校への理解と信頼を深めるために広報活動全般の推進を図る。 ・ＩＣＴ教育の推進、支援を積極的に行う。特にＢＹＯＤ事業が円滑にすすむよう努める。	・学校説明会、部活動体験をはじめ、中学校訪問や塾の説明会、さらにUJI学などの運営・調整を通して、中学生や保護者、地域の人たちが本校への理解を深められる取り組みをする。	B	B	・学校案内の作成や、部活動体験および学校説明会の実施、概ね予定通り広報活動を行った。加えて、中学校主催のものや塾対象の説明会にも参加した。 ・BYOD機器やその他ハードウェアの管理等を他の分掌と連携をとりながら行った。 ・PTA主催の模擬店を菟道祭で実施するなど、運営の形式を考えながらPTA活動が行った。
		・学校説明会等の年間参加者が1000人を越える広報活動を行い、説明会参加者アンケートの満足度95%以上を目指す。	B		
		・学校案内、ポスター、ホームページ（ＨＰ）、Classi等の広報媒体の作成、管理、更新を行い、広報活動全般の推進を図る。	B		
		・ＰＴＡ諸活動を全会員に周知するとともに、積極的参加を募るよう努める。	B		
		・ＩＣＴ教育の計画、ＢＹＯＤ事業、提案、ハードウェアの整備等に努める。	B		
第１学年部	・基本的生活習慣を確立し、集団生活における規範意識を高める。	・日常生活において、挨拶・身だしなみ・時間管理などを意識させる取組を行う。	B	B	・ほとんどの生徒が基本的な生活習慣を確立できたが、様々な事情により欠席する生徒もいるので、保健部と連携して今後も適切な支援を考えていく必要がある。 ・授業や講習を通じて継続的な学習を促し、希望進路についても考えさ
	・進路希望実現に向けて学習習慣を確立し、主体的に学ぶ姿勢を養う。	・授業を中心として、家庭学習の充実や課外活動の積極的な参加を促す取組を行う。 ・進路希望に向けた情報提供をし、なりたい自分について考えさせる。	B		

	・互いの違いを認め合い、豊かな人間関係を構築できる力を育む。	・HR活動や学校行事等で他者との関わりを意識させ、他者を尊重する姿勢を養う。	B		せることができた。今後さらに主体的に行動させていきたい。 ・HR活動や学校行事を通して、他の生徒との関わり方や集団の中での役割を意識させ、お互いを尊重する姿勢を養うことができた。
第２学年部	・自己理解を深化させるとともに、集団生活における自己の在り方を考えさせる。	・個に応じた指導を心掛け、高校生として望ましい規範意識や生活習慣を身に付けさせる。	B	B	・概ね、落ち着いた学校生活を送ることができたが、遅刻や身だしなみ等で意識に欠ける場面があった。 ・様々な学校行事における、自主的自律的な活動を通し、集団として大いに成長することができた。 ・日々の学習時間の記入や自習室の開設など、学習と部活動の両立に向けた取り組みを継続し、生徒一人一人が、自己の進路目標を明確にすることができる進路学習を実施した。
		・クラス活動や学校行事などを通して自主自律の精神を養い、自他を認め合う集団を育成する。	B		
	・進路希望の実現に向け、基礎学力の定着と自ら進んで学びに向かう姿勢を育成する。	・授業を中心とした予習、復習の学習スタイルを定着させ、学習と部活動の両立を実現させる。	B		
		・他分掌や各教科と連携を図り、進路学習等の組織的な指導を行い、自ら進路計画を立てさせる。	B		
第３学年部	・集団生活を通して、個を尊重し、多様化・複雑化する社会の中で責任ある行動のできる態度や力を育成する。	・時間管理を中心に望ましい生活習慣を確立し、SNSや服装・挨拶といった社会的マナーに関わる指導を充実させる。 ・クラス活動や行事を通して、互いを尊重し合い、協同的に学び合う取組を行う。	B B	B	・時間管理については一部の生徒で課題が残ったが、全体的には社会的マナーを遵守する様子が見られた。 ・校外学習や文化祭の行事を通して話し合いの場が見られ、協同的に学び合う取組を行うことができた。 ・放課後講習を実施したり、自習室の活用を促すなどの取組をした。 ・面談等を通して丁寧な進路指導を心がけた。一人ひとりが納得のいく進路を実現できるよう、指導することができた。
	・自己の可能性に気付き、目標に向けて最後まで主体的に学び、進路を切り拓く力を育成する。	・進路指導部や各教科と連携し、希望の進路実現に向けた取組を充実させる。授業に積極的に参加する態度を養うとともに、自習室や講習を充実させ、自主的に学習に向かう学習環境を整える。 ・面談等を通して個に応じた指導を心がけ、生徒一人ひとりが自己の適性や課題に気づき、課題解決に向け粘り強く取り組めるよう指導する。	B B		
事務部	・予算計画に基づく効率的かつ効果的な予算執行	・本校の学校運営経営方針や経営目標を達成するために、教育内容を理解し、より効率的な予算執行を行うため各部・各教科へのヒアリングを十分行う。 ・計画的な予算執行の中にも、時機に応じた瞬時の対応が図れるよう努める。 ・本校の教育内容に沿う府の事業等を積極的に活用、推進し、特に短期経営目標であるＩＣＴ教育や「総合的な探究の時間」の活動内容の充実を推進していく。	B	B	・今年度も、昨年度に引き続き、物価等の高騰により予算が厳しい状況ではあったが、計画的に予算執行を行うことができた。 ・施設・設備の不良箇所について、早期発見・早期修繕に努め、学校環境を整えることができた。今後も継続して早期対応に努める。 ・文書の取扱いについて、適正に行うことができた。今後も、個人情報の取扱いも含め、細心の注意をはらい、適切に取り扱うことができた。 ・大規模改修にあたり、主管課・業者・教職員と連絡をとり、安全に工事を行うことができた。
	・安全な施設・設備の管理	・日常的に校内巡視を行い、不良箇所等の早期発見に努める。老朽化した箇所については計画的に修理し、学習環境の充実を進める。 ・工事や修繕の実施は、校内調整を十分に図り、生徒・教職員が安全に学校生活を送れるように計画・執行する。 ・施設・設備の不良に起因する事故を０件とする。	B		
	・効率的な文書事務の徹底	・文書の起案・審査・決裁・施行・廃棄等の取扱いを、文書取扱主任を中心に、事務部および各分掌等へも指導し徹底する。 ・個人情報の管理を適切に行う。	B		

	・学校経営に参画する事務職員の育成	・本校の魅力や特色について情報発信の方法や内容を工夫し、地域や中学生の理解と信頼を得るため、学校説明会等において、教職員と連携し積極的に参画し、生徒募集につなげる。 ・学校行事等へ積極的に参画し、学校全体の業務や事業について俯瞰し、教育的視点も持ちあわせて業務に活かせる事務職員を目指す。	C		

評価領域 （教科領域）	重　点　目　標	具　体　的　方　策	評　価		進捗状況（成果と課題）
			項目	総合	
国語科	・新学習指導要領並びに大学入試改革に対応可能な、主体的・協働的で深い学びを意識した授業を行い、社会生活に必要な技能を育む。 ・言語感覚を磨き語彙を豊かにさせ、場や相手に応じて適切な言葉や文章を選択できるようにする。	・複数の資料を読み比べ、課題解決のために必要な情報を取捨選択できる技能を身につけさせるような授業、課題を設定する。 ・教授型の授業だけでなく、課題に対いて主体的・協同的に解決する教育活動を行う。 ・図書館、情報処理室を活用しながら、グローバルネットワーク事業との関連の中で、小論文・ポスターセッションを通し、課題解決型の学習活動を充実させる。 ・小テストや課題を継続的に課すことで、学習習慣の確立と語彙力の養成を図る。 ・自身の考えや読み取った内容を適切に相手に表現できる力を身に着けさせる。 ・対話的な学習活動を行い、自身の考え以外の考えにも触れさせる機会を多く作る。	B	B	・各教科の担当者で連携を取ることができている。単元テスト・定期的に小テストの実施しており、ICTを活用して主体的・協同的な教育活動も進んでいる。生徒の理解度の向上のため更に取り組みを推進している。 ・各授業において単元ごとに振り返りを行うなど、新学習指導要領に対応した取り組みが進んでいる。 ・ＢＹＯＤの活用が進んでいる一方で図書館や情報処理室を利用した取り組みを今後していくことも意識していく必要がある。
地歴公民科	・生徒の希望進路の実現に向けて、大学入学共通テストをはじめとする多様化した入試に対応できるよう、組織的に取り組む。 ・より質の高い授業を展開する中で、生徒の持つ次の資質を高めるために、組織的に取り組む。 ①基礎・基本的な学習内容 ②学習意欲の向上、自ら積極的に学ぶ姿勢 ③地理・歴史・公民、各分野への興味・関心 ④現代社会の諸問題についての関心を高め、その解決に向けて取り組む能力 ・新科目、観点別評価、BYODなど新たな動きに円滑に対応できるように教科全体で取り組む。	・小教科の担当者同士の打ち合わせや意見交換を密にし、計画的な指導を行う。また、教員間での専門分野や経験値の違いをうまく活用し、情報・ノウハウ・教材を共有していき、教科全体の財産を蓄積する。 ・特に、新科目、観点別評価、BYODなど新たな動きについては、校外での研修にも意欲的に参加し、ノウハウの習得に励むとともに、校内での実践に還元、情報共有を図る。 ・落ちつきある学習環境の確保・維持に努めるとともに、学年部をはじめとする他の分掌との連携を密にし、課題を抱える生徒の把握、組織的な対応などに努め、粘り強く指導していく。 ・定期考査以外にも、計画的な単元テストや小テストの実施や、適切な課題やレポートなどを課すことを通じて、基礎・基本的な学習内容の定着と自ら積極的に学ぶ姿勢の向上を図る。 ・大学入学共通テストをはじめとする多様化した入試に対応し、希望進路の実現に向けて生徒を支えていくために、模擬試験や過去問などを活用していく。校内外での研修や研究授業や授業公開を積極的に参加・活用する。 ・生徒の取り組み姿勢や成果に対して、適切なフィードバックを行うことで、生徒の学習意欲を向上させる。 ・本校に整備されているICTを活用した実践を一層充実させ、生徒の地	B B A	B	・各教科の担当者で連携を取ることができている。単元テスト・定期的な小テスト、レポート課題を実施しており、生徒の学習習慣の確立につなげることができた。 ・多様化する入試に対して、授業だけでなく､講習や個別指導を通じて、生徒の希望進路の達成に向けて、粘り強い指導ができた。 ・新科目について、担当者間でよく検討し、取り組むことができた。今後も指導の進め方を模索していく必要がある。来年度以降も、新科目が始まるので、教科全体で取り組んでいきたい。 ・観点別評価については、担当者を中心にシミュレーションを繰り返しながら、丁寧な評価ができた。今後も試行錯誤していく必要がある。

		理・歴史・公民それぞれへの興味・関心・理解度を高めていくとともに、よりよい活用法を研究する。 ・本校特色化事業や伝統文化事業にも積極的に関わっていく中で、現代社会の諸問題についての生徒の関心を高め、その解決に向けて取り組む能力を高める。			・BYODについては、地理総合や公共でデジタル教材の活用を始めたが、今後も有効性等の検討が必要である。ロイロノート等も多くの教員が活用しはじめることができた。
数学科	３年間を見通した学習指導を行い、希望進路の実現につながる学力を一人一人につける。	・より質の高い授業を行うように努めるとともに、実力を育成するための十分な演習時間と質を確保する。	B	B	・授業の中で問題演習の時間と内容の確保に努めた。 ・共通課題だけでなく、各講座の状況に合わせて課題を提示し、学力を伸ばす工夫をした。 ・ICTを活用した授業を数多く試行錯誤し、指導を研究した。 ・共通テストに向けて一定の研究ができたが、結果が伴うよう、また新課程に対応できるよう、更なる研究が必要である。
		・家庭学習の意識を高めるため、各時の課題を明らかにし、明確な目標を持って学習に取り組み自ら学力を伸ばす生徒を育てる。	B		
		・ICTを有効に活用する授業について研究する。	B		
		・大学入学共通テストに対応した問題の研究を進める。	B		
理　科	自然科学に対する興味・関心・意欲を高め、知識を身につけさせ、科学的なものの見方・考え方を働かせる。	・授業においてＩＣＴ教材や演示実験等を効果的に活用する。また、アクティブラーニングの手法を取り入れ､｢主体的・対話的で深い学び｣を促進する ・実験・実習を積極的に実施し、レポートの作成を通して内容を深く考察させる。また高大連携事業などにおける実験・実習やプレゼンテーションを通して、探究的に学ぶ姿勢を養う。	B	B	・電子黒板やタブレット端末などのＩＣＴを活用した授業、教室内での演示実験を積極的に実施した。 ・様々な工夫をしながら、実験・実習を実施することができた。 ・研究機関との連携授業を実施し、通常の授業では学べない内容を生徒に経験させることができた。 ・小テストや課題の提出など、授業の進度に合わせて実施できた。
	進路選択に対応できる学力を育成する。	・授業の順序や内容を適切に組み立て、効果的な指導を行う。学習内容の定着のために可能な限り問題演習や小テストを実施するとともに、思考力・判断力・表現力を身につけさせる機会をつくる。 ・小テストや課題テスト等を適宜実施し、基本事項の定着を図る。授業と家庭学習の関連付けを明確にし、進路実現のために必要な学力を身につけさせる。	B		
保健体育科	・自己の心身を客観的に分析し、自ら調整する力や他者に伝える力を養わせ、健康・安全に個人・社会生活を営むことができるようにさせる。	・運動実践や体育理論、保健学習を通じて、スポーツの歴史や文化、身体の構造、運動の効果を理解させることによって、運動することの意義や楽しさを学ばせる。 ・健康を管理し、改善していくための、情報を提供する「発表」とその情報をまとめる「収録作り」を実践させる。	A	A	・体育理論の授業を実施し、「生涯スポーツについて」個人と社会の関わり方を学ばせることができた。 ・夏季課題を通して調べ学習を実施し、発表に向けての準備をさせることができた。 ・可能な限り種目を選択させたが、担当教員数等に限界があり、十分な選択幅とは言えないが、集団で活動する基盤を作ることができた。 ・心肺蘇生法を実習を通し、十分に
	・自己に応じた体力の向上を図り、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する能力を付けさせる。	・可能な限り生徒の興味関心のある運動スポーツや題材を選択させ、意欲的に取り組むようにさせる。 ・選択制授業を通じて、自ら計画を立案し、集団で運動やスポーツに取り組むことができる基盤を作り上げる。	B		
	・感染症対策等に留意させ、自他の健康・安全	・事故や怪我がないよう、用具の使用法に留意させることに加え、感			

	について理解を深めさせる。	染症対策にも留意させ、自他の健康・安全を守らせる。 ・AED使用等、心肺蘇生法を学習させ、万が一の対応に備える。	A		学習させることができた。
芸術科	・基礎的・基本的な技術の定着を図り、意欲的に活動する姿勢を育成する。更に、定着した技術を基に独自に応用する能力を身に付けさせる。	・意欲や創造性を引き出せる指導法の研究と教材の精選をすすめ、生徒が主体的に取り組む姿勢と創造力を向上させる授業を行う。	B	B	・各科目で選択した単元・課題に熱心に取り組んだ。 ・授業においては、生徒の人格形成に資するような授業の展開を心がけた。また、ＩＣＴを活用した授業を試行錯誤し、指導法を研究した。
	・それらの活動を通じて、自国の文化・芸術に誇りを持ち、他国の文化・芸術を尊重する人材を育てる。 ・豊かな創造力を基に、主体的に考え自ら問題提起し解決に向けて行動できる能力を育てる。	・日常の様々な場面で作品・演奏を発表させることにより、自己の作品・演奏に責任を持たせるとともに、相互鑑賞指導の充実を図る。 ・授業で学んだ事が社会とつながるものにする。	B		・作品制作や練習の成果を発表する場である芸術祭のあり方について近年模索してきたが、今年度は合唱コンクールを実施することができ、一定の成果を得た。
英語科	適切な学習習慣と基礎学力の定着・向上を図り、希望進路に対応できる実践力を養う。	・それぞれの教材や単元で習得すべき学習事項を明確に理解・意識させ、知識を整理しながら学習活動が行えるよう指導する。 ・効果的で適切な小テストや課題を設定する。 ・蒐活や模擬試験等、授業外の取り組みを有効に活用する。 ・ICTを効果的に用いた授業や適正な評価についてさらに研究し、教科内で共有・発展させる。	B	B	・ICTを活用し、効果的に学習事項の理解を促進した。 ・小テストや模擬試験を用い、一層の学力向上に取り組んだ。 ・複数学年に渡りAETの活用を進めた。 ・スピーキング、リスニング、エッセーライティングなどのパフォーマンステストを実施し、４技能のバランスの取れた指導を行った。 ・実用的な英語力の育成を目指し、英語検定の受検を促した。一次および二次試験対策を授業中に行ったり、放課後、個別に行った。 ・GTECオフィシャル版（3年生）の受検者はいなかったが、英検以外にも効果的に利用できる外部検定を検討していく必要がある。 ・大学受験（進路実現）に対応できるよう演習の時間を確保した。
	知識・技能の習得にとどまらず、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、思考力・判断力・表現力を養う。	・４技能を総合的に育成する言語活動を授業に取り入れ、コミュニケーションを意識させる。 ・AETを積極的に活用し、特にスピーキングやライティング活動を活性化させる。	B		
	英語学習への意欲・関心を高め、自主的・主体的に取り組む姿勢を育む。	・GTECや実用英語技能検定を活用し、英語運用能力を測ることにより、自己の課題を認識させる。 ・生徒の興味・関心・能力に応じた教材を選択し、探究的な活動を取り入れる。	B		
家庭科	・実践的・体験的な学習を通して、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。 ・基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、学んだ事を活用できる力を身に付けさせる。	・少子高齢化、成年年齢の引下げ、防災や安全、持続可能で環境に配慮した生活等、社会の変化への対応を重視し、自らの生活課題の解決方法を探求し、問題を解決する力を育てる。 ・体験的な学習を中心とした授業を行うとともに、ICTを積極的に活用し、効果的、意欲的に学ぶ環境作りをする。 ・体験学習ごとにレポート提出を課すことにより、学んだこと感じたことを自分の言葉で表現する力を養う。	B	B	・全員参加の保育園実習を実施した。生徒は積極的に子どもたちと交流し、子どもに対する印象が大きく変えることができた。 ・マネープランゲームを通して生涯を見通した家計管理を検討したり、社会人講師による資産形成に関わる

					講演会など、体験型の金融教育を実施した。
情報科	・ 課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて，必要な情報を主体的 に収集・判断・表現・処理・創造し，受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力を養う ・情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と，情報を適切に扱ったり，自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解をさせる。 ・基本的なアルゴリズムを理解させ、初歩的なプログラミングの知識と技術を身につける。	・主体的な態度で授業にのぞませ、他者との対話を重ねながら実習課題等に取り組ませる。 ・コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成を図るために、効果的なプレゼンテーションの手法を理解させる。 ・基本的なコンピュータリテラシー（タッチメソド・表計算・プレゼンテーションソフト等）を講義、実技を通して身につけさせる。 ・ＶＢＡをもとに、プログラミングの基礎を身につけさせる。	Ｂ	Ｂ	情報に関わる基礎的な知識及びプログラミングの手法について理解を深めさせた。 また他者との対話を重ねながら課題に取り組ませるなど、極力コミュニケーションを重視した授業になるよう工夫をしている。 さらに主体的に諸課題に取り組めるように今後努める。

学校関係者評価委員会による評価	・落ち着いた学習環境を維持し、生徒それぞれが学習や部活動などやりたいことに挑戦し、おおむね「莵道高校に入学してよかった」という思いを生徒が持っている。 ・質の高い授業を実践し、部活動をはじめ特別活動を充実させ、校訓である「さとく」「さやかに」「たくましく」をすべての教育活動で具現化できるよう努めてほしい。 ・コロナの５類移行に伴い、生徒が様々な活動に制約無く生き生きと取り組むことができたのは大変良かった。一方コロナの影響により、そういった活動の経験値が不足している生徒も多く入学しており、指導に工夫が必要な部分も出てきている。今後も生徒が思いきって様々な活動に取り組める環境を整えてもらいたい。

次年度に向けた改善の方向性	・次年度以降も質の高い授業を実践し、部活動をはじめ特別活動の充実を図りながら、生徒が自分のやりたいことに挑戦できる環境を整え、本校の校訓である「さとく」「さやかに」「たくましく」をすべての教育活動で具現化できるよう努める。 ・ＩＣＴの活用について、スマートフォンやタブレットに関しては生徒の自己管理を促しながら、インターネットを通じて得られる膨大な情報についてのリテラシーにかかわる教育を推進する。 ・社会の変化に応じて、学校に求められる役割を整理し、校則やその指導の在り方を検討する。 ・新学習指導要領での「総合的な探究の時間」と莵道高校の様々な取り組みを結びつけ、より体系的に取り組める体制を築く。 ・校内の施設設備について、可能な範囲で更新をして学習環境を整える。